



河井寛次郎 辰砂成就字文蓋付壺  
昭和17年(1942)頃 陶器

\*昭和十四年(一九三九)竣工。基本設計は柳宗悦、実施設計と現場監理は濱田庄司。令和三年(二〇二一)一〇月一四日に、竣工当初の建物と増築部分の一部(建築面積一八〇㎡)が「式場隆三郎家住宅 一棟」として、文化財保護法の規定により国の文化財登録原簿に登録された。



# 式場隆三郎と民藝運動

「式場隆三郎家住宅」  
国登録有形文化財・登録記念企画展

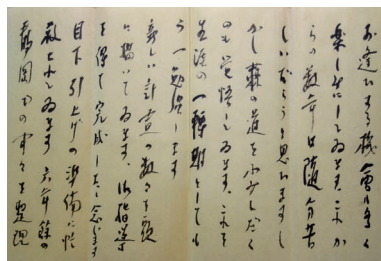


式場隆三郎『民藝と生活』  
私家本 芹沢銈介装幀  
昭和19年(1944)2月

民藝運動とは、大正時代末期に柳宗悦(一八八九―一九六二)らによって提唱された生活文化運動です。柳らは人々の暮らしの中にある生活道具を民衆的工芸(民藝)と名付け、そこに健全な美が多く宿るとし、その美を生活に活かすことを目指して活動しました。精神科医・式場隆三郎(一八九八―一九六五)も、柳らと共に初期から運動の発展に尽力した一人です。

式場が民藝運動に本格的に参入したのは市川在任時代です。昭和十一年(一九三六)一〇月に開館した日本民藝館に品物が「活々と」並ぶ光景に大きく心を揺さぶられ、自らの内に豊かな空想や創造力が生まれるのを実感しました。この後式場は徐々に民藝との関係を深め、柳や陶芸家・濱田庄司(一八九四―一九七八)らに住宅\*の設計・建築を依頼。同一四年(一九三九)、新たに創刊した機関誌『月刊民藝』の編集の任に就き、精力的な活動をはじめます。

本展では、初公開となる式場の柳宛書簡(日本民藝館所蔵)や著作、工芸品等約二〇〇点を通して、式場が民藝運動に「活きた」道筋を「礎」、「活」の二部構成でご紹介します。



式場隆三郎 柳宗悦宛書簡  
昭和11年(1936)3月13日付  
日本民藝館所蔵

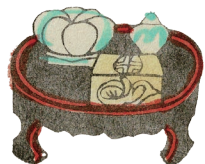


式場隆三郎邸 令和4年(2022)



『月刊民藝(民藝)』日本民藝協会  
昭和14年(1939)4月～  
21年(1946)7月

式場隆三郎(しきば・りゅうざぶろう)(一八九八―一九六五)新潟県中蒲原郡五泉町(現・五泉市)に生まれる。新潟医学専門学校(現・新潟大学医学部)在学中、『白樺』に影響を受け、文化団体「アダム社」を結成。柳宗悦、武者小路実篤らの知遇を得る。昭和十二年(一九三九)市川市に移り住み、国府台病院(現・式場病院)を設立。二〇〇冊を超える著書の執筆、ゴッホの研究や複製画展、山下清の支援・紹介活動のほか多彩な活動を行った。なお、市川市とバラ文化の淵源は式場病院のバラ園にある。



\*企画展名の枠、鳥等の挿画：芹沢銈介作(式場隆三郎『ファン・ホッホの生涯と精神病』(1932)、『文学的診療簿』(1935)、『民藝と生活』(1944)より)

## 市川市文学ミュージアム 企画展示室

〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4 市川市生涯学習センター(中央図書館)2階  
TEL 047-320-3334 FAX047-320-3356

<https://www.city.ichikawa.lg.jp/cul06/litera.html>

○JR総武線 本八幡駅・下総中山駅 徒歩15分 ○都営新宿線 本八幡駅 徒歩20分

○京成線 鬼越駅 徒歩10分 ○車 京葉道路京葉市川インター下車5分

※駐車場はありますが、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

※JR本八幡駅北口よりコルトパス(無料)もご利用いただけます。

